

## 耕作放棄地を再生利用し自然農法で作る大和茶

健一自然農園 奈良県奈良市

奈良市の東部、標高 400~500m の大和高原に位置する旧都祁村は、冷涼な気候を活かして「大和茶」と呼ばれる奈良特産のお茶の栽培が古くから盛んだったが、近年は後継者難に悩まされている。そうした中、同地で新規就農し自然農法による大和茶栽培に取り組む『健一自然農園』（代表：伊川健一さん）の活動に今注目が集まっている。

自然農法とは、農薬や化学肥料はもちろん有機肥料も使わず、できる限り草が生えるに任せて、多様な動植物が生き生きと過ごす畑の状態を保つ農法のこと。実際に茶畑に足を踏み入れてみると、栄養豊かな土はまるで絨毯のようにふかふかとしている。



自ら製茶している、番茶・煎茶・ほうじ茶・釜茶・烏龍茶・和紅茶などの製品

地面には草が生い茂っているが、自然本来の循環機能のおかげで栄養に富んだ柔らかい土となっている

現在 29 才の伊川さんが生まれ育ったのは大和郡山市の市街地。実家は商売をしており農業とは無縁だったが、進路に悩んでいた高校生の頃にテレビ番組で自然農法のことを知って魅力を感じ、週末に三重県内の自然農塾に通って基礎を勉強した。

高校卒業後、知人のついでで都祁の耕作放棄茶畑を紹介され、お茶の木の生命力に魅力を感じ 2001 年に 1,000 坪を借りて『健一自然農園』の運営を開始。家族や友人たちと根気よく手を入れ整備していった茶畑は現在 10 か所 9,000 坪になり、年間約 5 トンのお茶を生産。他に大豆、米、野菜なども栽培している。

販路開拓には苦労したが、これもやはり人の縁や口コミにより、エコや食の安全性を重視する飲食店、食料品店、雑貨店などで人気が高まっていった。

そうした取扱店の一つに、ライフスタイル提案型セレクトショップとして人気の『アーバンリサーチ』があり、2 年前から全国の店舗で同農園のお茶を販売している。美味しさが評判を呼び、今やこのお茶目当てのリピーターが絶えない大人気商品となっているという。



生産地の様子を学ぶために同農園で茶摘み体験をする『アーバンリサーチ』スタッフのみなさん

現在、全国の耕作放棄地は約 39 万 ha（大阪府の面積の 2 倍）、耕作放棄地率は 9.7% にも及び、食の安全保障の観点からも問題となっているが、若くして新規就農し耕作放棄地を自然農法で蘇らせた伊川さんの取り組みは各方面で反響を呼んでいる。

アイドルグループ“嵐”が全国を巡って地域の魅力や直面する課題などを紹介する内容の非売品冊子『ニッポンの嵐』（観光庁が全国すべての小中高等学校に配布）が一部で話題となっているが、その取材でメンバーの櫻井翔さんが同農園を訪れ、伊川さんとともに茶摘みと製茶を体験したという。

また、自然農法のお茶の味に親しんでもらおうと、大手飲料メーカーに生産委託し、同農園の茶葉を使用して自然農法の風味を活かすことに徹底的にこだわったペットボトル茶を 11 月に発売。化粧品メーカーと共同で、茶のオーガニック成分を自然派化粧品に活用する研究事業にも取り組み中だ。

「COP10（今年名古屋で開催された、生物多様性条約締約国会議）などで生物多様性を重視する新しい価値観が注目され始めているが、そうした価値観を活かした農業が仕事になるということ自分を先例となって示したい」と語る伊川さん。現在、伊川さんの活動に賛同した 10 人程度の仲間が都祁周辺に移住し、新たに農業に取り組み始めているという。明るい笑顔と行動力で周囲の人たちを巻き込む伊川さんの今後の活躍に期待したい。

（吉村 謙一）



### 健一自然農園

〒632-0101 奈良県奈良市下深川町 669

TEL・FAX：0743-84-0790

URL：http://sky.geocities.jp/kenitisizennouen/  
http://cyaen.fai-system.com/